

October 7, 2020

**【前日の為替概況】ドル円、反落 米追加経済対策の協議中止**

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は105.63円と前営業日NY終値(105.75円)と比べて12銭程度のドル安水準だった。米10年債利回りが一時0.7901%前後と6月10日以来約4カ月ぶりの高水準を付けたことなどが相場の支援材料となり、105.70円付近まで上げたものの、アジア時間に付けた日通し高値105.79円を上抜けることは出来なかった。105.79円は前日の高値でもあり、目先レジスタンスとして意識されたようだ。

NY午後に入り、米追加経済対策の成立期待から一時200ドル超上昇していたダウ平均が、トランプ米大統領の「11月の大統領選後まで追加経済対策の協議を中止するように交渉担当者に伝えた」とのツイートきっかけに急落するとドル円にも売りが波及。5時前に一時105.47円と日通し安値を更新した。もっとも、米国株の失速でリスク・オフのドル買いも入ったため、ドル円の下値は限定的だった。

なお、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は講演で「5、6月から景気改善のペースは鈍化」「見通しは非常に不確実」「金融政策と財政政策がそろって機能し続ければ、経済の回復はさらに強く早くなる」などと発言し、米議会に追加の財政出動を改めて求めた。

ユーロドルは反落。終値は1.1734ドルと前営業日NY終値(1.1783ドル)と比べて0.0049ドル程度のユーロ安水準だった。米国株の上昇を受けてリスク・オンドル売りが先行し一時1.1808ドルと9月21日以来の高値を付けたものの、1.18ドル台に定着することは出来なかった。トランプ氏が米経済対策を巡る協議停止を表明すると、ダウ平均が一時420ドル超下落したためリスク・オフのドル買いが優勢に。取引終了間際に一時1.1732ドルと日通し安値を付けた。

ユーロ円は反落。終値は123.95円と前営業日NY終値(124.60円)と比べて65銭程度のユーロ安水準。22時30分過ぎに124.73円と9月16日以来の高値を付けたものの、米国株の失速をきっかけに円買い・ユーロ売りが強まると123.86円と日通し安値を付けた。

豪ドルは下げ幅を拡大。豪準備銀行(RBA)が市場予想通り政策金利を据え置いた際の声明で、「経済を支援するため、追加措置を講じる可能性」を示唆。NY市場でも豪利下げ観測を背景に豪ドルを売る動きが続いた。米国株の失速を受けて、リスク回避的なドル買いと円買いが強まった影響も受けた。豪ドル米ドルは一時0.7100米ドル、豪ドル円は75.01円まで値を下げた。

**【本日の東京為替見通し】向こう見ずな米大統領に振り回される、支持率低下で過激な行動も**

本日のドル円も引き続きトランプ米大統領の動向次第になりそうだ。トランプ大統領の早期退院は市場に安心感を与えたが、退院前日に病院の周りを回ったこと、昨日ホワイトハウス到着後、近くにカメラマンやホワイトハウス内のスタッフがいるにも関わらず、バルコニーでマスクを外したことなどで、ウイルスに感染しているにも関わらず他者を顧みない大統領の行動を非難する声が高まっている。CNNの人気キャスター・エリン・バーネットは映像を見て「自分の威厳を見せるためだけに集中し、周囲を考えない」ことに「金正恩・北朝鮮労働党委員長と変わらないのではないかと」発言している。陽性判明後の世論調査でも支持率は大きく下がり、大統領の感染した時期を隠していることで、ホワイトハウスがウイルスの詳細を伝えていないと思っている比率は7割近くに上昇している。これら大統領の行動に対して米国では「reckless(向こう見ず)」という言葉が使われている。

米国政権の混迷や支持率低下は米国にとってマイナス要因だが、この向こう見ずな大統領が残り1カ月を切った大統領選挙を前に何を仕掛けてくるのかが想像がつかない。NY引け前に追加経済対策の協議の中止を指示し、協議が進まない責任を民主党に転嫁しようとしている。上記のようにウイルス感染とその対応に失敗し、窮地に追い込まれている米大統領が再選をするために、より過激な一手を打ってくる可能性に警戒したい。特に内政よりも幅広く支持を得ることが可能な中国への圧力を加えることや、イランなどの米国が攻撃しやすい国への挑発など、支持率拡大のための次の一手次第で為替市場は大きく動く可能性がある。なお、上記の市場調査では、まだ誰に大統領選挙を投票するか決めていない有権者が8-9%いるようだ。

本日のNY入り後にローゼングレン米ボストン連銀総裁、ポスティック米アトランタ連銀総裁、カシユカリ米ミネアポリス連銀総裁、ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、エバンス米シカゴ連銀総裁などの講演や、先月15-16日に行われた米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨の公表などのイベントがある。

しかし、昨日のパウエルFRB議長の講演でも値動きが限られたことで、余程のサプライズがない限りは動意薄になるのではないかとと思われる。

円以外も米大統領に振り回される相場は変わらないだろうが、本日からバルニエ英EU離脱・欧州委員会首席交渉官とフロスト英・EU担当交渉官がロンドンで離脱に向けた再交渉に入ることによってユーロとポンドの値動きも再び神経質になりそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 08:00 ◎ 黒田東彦日銀総裁、講演（全米企業エコノミスト協会年次会合）
- 08:50 ◇ 9月外貨準備高
- 14:00 ◇ 8月景気動向指数速報値（予想：先行89.0／一致79.4）

### <海外>

- 15:00 ◎ 8月独鉱工業生産（予想：前月比1.5％／前年同月比▲8.7％）
- 15:45 ◇ 8月仏貿易収支
- 15:45 ◇ 8月仏経常収支
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：0.10％で据え置き）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:10 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 23:00 ◇ 9月カナダIvey購買部協会景気指数
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 8日 01:30 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演
- 8日 02:00 ◎ ローゼングレン米ボストン連銀総裁、ボスティック米アトランタ連銀総裁、カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
- 8日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札
- 8日 03:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 8日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（9月15日～16日分）
- 8日 04:00 ◇ 8月米消費者信用残高（予想：140億ドル）
- 8日 05:30 ◎ エバンス米シカゴ連銀総裁、講演
- 中国（国慶節・中秋節）、休場
- 英・欧州連合（EU）首席交渉官、ロンドンで会談
- 米共和、民主両党副大統領候補のテレビ討論会（日本時間8日午前中予定）

8日

### <国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 08:50 ◎ 8月国際収支速報

### <海外>

- 08:01 ◇ 9月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格
- 09:00 ◇ 10月NBNZ企業信頼感
- 10:45 ◎ 9月Caixin中国サービス部門PMI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

6 日 12:32 オーストラリア準備銀行(RBA)声明

「完全雇用への進展が見られ、インフレが 2-3%の目標範囲内で持続可能と確信するまで利上げはしない」  
「経済がさらに開放されていく中で、追加の金融緩和がどのように雇用を支えることができるかを引き続き検討」  
「オーストラリアの大部分の地域では回復が進んでいる」  
「国内の回復は浮き沈みの多く、不均等なものとなる可能性が高く、生産高の水準が 2019 年末の水準に戻るまでにはしばらく時間がかかるだろう」  
「失業率は当初の予想よりも低い水準でピークを迎える可能性が高い」  
「財政・金融両面での支援はしばらくの間必要」  
「市場では金融政策の更なる緩和の可能性があるとの見方が強まっている」  
「豪州の金融システムの流動性は非常に高く、借入コストは過去最低水準」  
「豪ドルは、過去数年のピーク時の水準をわずかに下回っている」

6 日 17:41 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁

「経済回復は不完全であり、不均一、かつ不確実性もある」  
「完全な回復は 2022 年末まで見込まれない」  
「ECB はあらゆる手段を活用する準備がある」  
「ECB はリバーサルレートには達していない」

6 日 18:38 ブラード米セントルイス連銀総裁

「FRB は 2021 年末まで政策スタンスを変更しないだろう」  
「7-9 月期の米 GDP は 30%成長となる見込み」  
「米失業率は年末までに 6.5%に低下する見込み」

6 日 22:46 欧州連合(EU)筋

「10 月末とされる英との合意期限は 11 月半ばまで延長することが可能」  
「漁業権などの解決にはまだ大きな障害がある」  
「直近の英との協議はこれまでで一番ポジティブであり、大きな進展があった」

6 日 23:36 南アフリカ準備銀行(SARB、中央銀行)

「金融緩和の効果が強くするのは来年半ば」  
「20 年南ア GDP 見通しは 8.2%減で維持」  
「今年第 3, 4 四半期に景気は大きく回復する」

6 日 23:45 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「5、6 月から景気改善のペースは鈍化」  
「回復は予想よりも早く進んだ」  
「支援が少なすぎると不必要なハードシップが発生する」  
「政策支援をやりすぎるリスクは小さい」  
「見通しは非常に不確実」  
「家計はおそらくより多くの財政支援を必要としている」  
「マイナス金利は検討していない」  
「もし回復が鈍ければ、金利が低水準に留まる期間が長引くだろう」  
「FRB は資産価格に焦点を当てていない」

6 日 23:48 トランプ米大統領(ツイッター)

「15 日にマイアミで予定されているバイデン氏との討論会を楽しみにしている」

7 日 03:52

「ペロシ米下院議長(米民主党)は誠意を持って交渉していない」

「米追加経済対策の協議を大統領選後まで中止する」

7 日 00:15 ホワイトハウス

「大統領は劇的かつ迅速に回復している」  
「まだ危機を乗り越えたわけではない」

7 日 00:51 エルドアン・トルコ大統領(メルケル独首相とのオンライン会談にて)

「欧州連合(EU)サミットの決定はトルコとの地域問題を解決するには不十分」

7 日 01:21 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁

「景気は予想よりも早く回復している」  
「失業率がパンデミック前の水準に戻るのには 2023 年以降」

7 日 02:57 アルメニア首相

「アゼルバイジャンが同じようにするならば、ナゴルノ・カラバフについてアルメニアも譲歩する」

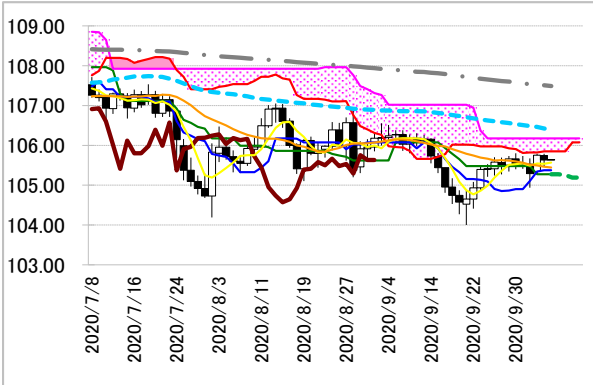
7 日 03:31 ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表

「第一段階合意が実行されているため、対中貿易赤字は縮小している」  
「8 月の貿易収支は、他国よりも米の経済活動が強かったことを示している」

※時間は日本時間



## 〔日足一目均衡表分析〕

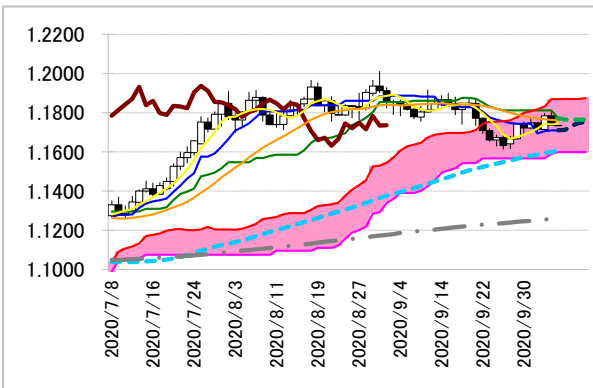


### <ドル円＝転換線付近で動き鈍い>

下影小陰線引け。一目均衡表・転換線 105.37 円付近で動きが鈍い。

さえないが、105.44 円前後で低下中の21日移動平均線や、段階的に切り下がる流れを維持する一目・基準線へ追従した下押しリスクが高いともいえない。ただ、上値を広げるにしても、現在 105.85 円に位置する一目・雲の下限が上昇する来週を待つことになりそうだ。

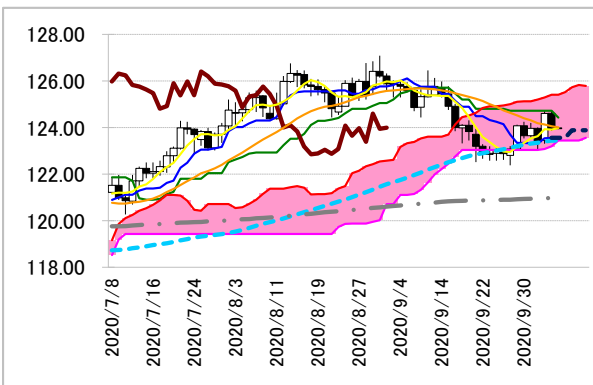
レジスタンス 2	106.95(8/28 高値)
レジスタンス 1	106.18(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	105.63
サポート 1	104.94(10/2 安値)



### <ユーロドル＝基準線の手前で押し返される>

上影陰線引け。1.1812 ドルに位置していた一目均衡表・基準線の手前で押し返された。同線は本日 1.1771 ドルへ低下し、引き続き上値を抑えそう。一目・転換線 1.1710 ドルに近づいている。目先のすう勢を示す5日移動平均線は 1.1740 ドル付近でおおむね横ばい。基準線と転換線に挟まれたレンジ前後の推移を示唆している。基準線と転換線の交差が想定される 1.1760 ドル付近にいったん収れんする展開を見込む。

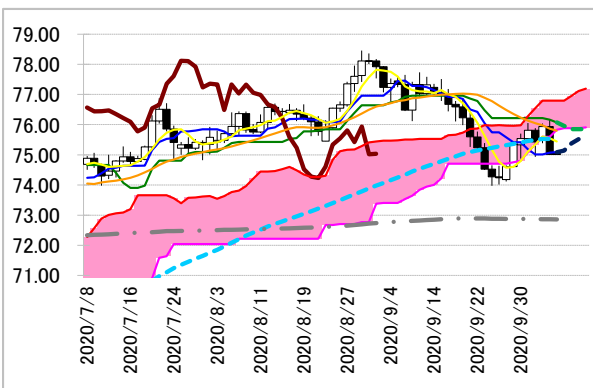
レジスタンス 1	1.1771(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1734
サポート 1	1.1685(9/30 安値)



### <ユーロ円＝転換線や90日線、雲の下限付近の動向注視>

陰線引け。一目均衡表・基準線付近で動きが重く、124 円割れへ下押しした。124 円付近で低下中の21日移動平均線の推移に沿って、一目・転換線 123.56 円や90日線、一目・雲の下限を試すことになるか。上昇が見込まれサポートとなりそうなそれらのテクニカル指標付近の動向を注視することになる。

レジスタンス 1	124.42(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	123.95
サポート 1	123.45(90日線、日足一目均衡表・雲の下限)



### <豪ドル円＝90日線に頭打ちの兆候>

上影陰線引け。一目均衡表・基準線に上昇を抑えられ、一目・転換線付近へ反落した。基準線・転換線に挟まれたレンジの推移を想定するが、同レンジ中程で上向きに推移してきた90日移動平均線が、75.52 円前後で頭打ちの兆候を示している。収束するレンジを抜ける方向が下向きとなるリスクを高めつつある。

レジスタンス 1	75.52(90日移動平均線)
前日終値	75.02
サポート 1	74.63(ピボット・サポート 1)

